

## 8. その他の無脊椎動物 (頭索動物・環形動物・扁形動物・海綿動物) 《概要》

節足動物と陸産・淡水産貝類以外の無脊椎動物については、残念ながら県内に専門家が不在で、今回は、ヒガシナメクジウオ（情報不足）、淡水産プラナリア（扁形動物）1種（準絶滅危惧）、淡水産カイメン類（海綿動物）2種（その他の重要種と情報不足）の4種が掲載されていたのみである。

今回の選定では、県内の3つの一級河川（千代川、天神川、日野川）で行なわれている国土交通省の河川水辺の国勢調査で若干の情報のあったミドリビル（環形動物）を追加した。

淡水産プラナリアは現在のところ県内からは3種（ナミウズムシ、ミヤマウズムシと外来種のアメリカナミウズムシ）が知られるのみだが、うちミヤマウズムシ1種が「準絶滅危惧」（前回と同じ）で選定された。

淡水産カイメンは7種が確認されているが、うちヌマカイメンとシロカイメンの2種をリスト掲載種として選定した（ランク変更なし）。

ナメクジウオ類は日本に4種が記録されているが、鳥取県沿岸で生息が確認されているのは、ヒガシナメクジウオ1種のみである。瀬戸内海などでは海底の砂利採取などによる生息地の減少が問題になっている。鳥取県での最近の生息状況は不明で、前回と同じく「情報不足」での掲載となった。

（鶴崎展巨）

**ヒガシナメクジウオ** ナメクジウオ目ナメクジウオ科  
*Branchiostoma japonicum* (Willey, 1897)

鳥取県：情報不足 (DD)  
環境省：—



熊本県天草産の個体から採卵し人工繁殖した個体  
／撮影：浦田 慎

■**選定理由**：全国各地の干潟で多産していたとされるが、海砂の採取・埋め立て、海洋汚染などにより激減し、現在も多産する地域は広島県竹原市のハチの干潟、大分県の中津干潟などに限られる。本種の生息地として、愛知県蒲郡市大島と広島県三原市有竜島が国の天然記念物に指定されているが、前者は1968年以降記録がない。日本海側での報告は少ない。

■**特徴**：細長い体に、膜鱗状の構造があり、体軸に脊索が縦走し、その背側に神経管が走る。その形態から脊椎動物の祖先と考えられ、学術的にも重要。潮間帯から水深数十メートルの荒い砂の底質に生息し、砂に潜って植物プランクトンなどをろ過して食べる。夜行性。

■**分布** 県内：鳥取砂丘沖の水深約25mにおいて、2003年5月13日に鳥取県栽培漁業センターが実施した採泥調査で採集されて以来、追加報告がない。県外：三陸海岸（太平洋側）・丹後半島（日本海側）以南の本州、四国、九州；中国。

■**保護上の留意点**：砂質の海底の維持が重要。山陰沖での生息状況についてはさらに調査が必要である。

■**文献**：10, 11.

執筆者：太田悠造

**ミヤマウズムシ** 扁形動物門“ウズムシ類”(三岐腸目) ヒラタウズムシ科  
*Phagocata vivida* (Ijima & Kaburaki, 1916)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)  
環境省：—



尾端が切れて再生した個体（採餌直後でいつもより少し太め）。  
大山川床阿弥陀川 2021.10.15 / 撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：冷水域にすむ狭適温性種で、県内では河川の源流域だけに生息。温暖化起因かどうか不明だが、生息地は減少傾向である。

■**特徴**：体長20mm以下で細長い。体の背面は灰色～灰黒色、頭部左右にとがった触角があり、2眼をもつ。

■**分布** 県内：生物学的水質階級の貧腐水性域の指標種の一つで、県内では河川の上流～源流域（標高500–1500m）に生息。確実な記録は氷ノ山、那岐山、大山阿弥陀川の上～源流部（標高520m以上）、行者谷、榎水原の冷小流や湧泉、船通山（日野川源流部）であった。ところが温暖化起因かどうか不明だが、かつて本種が確認されていた大山麓の河原（標高850m）は現在はナミウズムシ *Dugesia japonica* Ichikawa & Kawakatsu, 1964 単独の生息域となっている。現在確認できているミヤマウズムシ生息地点は大山川床の阿弥陀川のみである。調査は十分ではないが、氷ノ山・扇ノ山でもナミウズムシのみの確認にとどまっている。他の地域でも調査が必要である。低地でも、冷泉に出現する可能性はある。県外：北海道（大雪山以南）、本州、四国、九州；朝鮮半島（高所）、ロシア沿海州。

■**保護上の留意点**：源流部の開発や水質汚染に注意が必要。

■**文献**：3, 4, 5, 6.

執筆者：鶴崎展巨・川勝正治

**シロカイメン** ザラカイメン目タンスイカイメン科  
*Spongilla alba* Carter, 1849

鳥取県：その他の重要種 (OT)  
環境省：—



鳥取市湖山池東岸の石積の間隙  
乾燥標本（鳥取県立博物館保管）  
採集：2016.11.12 谷岡 浩 / 撮影：一澤 圭

■**選定理由**：汽水性の種で、県内からは湖山池と東郷池のみから知られる。国内では他に島根県宍道湖と茨城県潤沼から知られるのみである。全国的に産地が少なく、東郷池の集団は保護に値する。

■**特徴**：基質を盤状に覆うように付着するが、表面には多くの不規則な形の短い突起をもつ。汽水域にのみ生息する。冬期は芽球で越冬する。

■**分布** 県内：鳥取市湖山池、東伯郡湯梨浜町東郷池。湖山池のものは2012年の汽水化によって最近現れたもので、東郷池からのシジミの移植などにもなう移入とみなされる。県外：宍道湖（島根県）、潤沼（茨城県）；西南アジア、アフリカ、オーストラリア、アメリカ合衆国、南アメリカ。

■**保護上の留意点**：塩分濃度の大きな変更を生じさせないこと。

■**文献**：1, 2, 8, 13.

執筆者：益田芳樹

## ヌマカイメン ザラカイメン目タンスイカイメン科

*Spongilla lacustris* (Linnaeus, 1758)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



東伯郡西岡谷池 2001.6.20 / 撮影：益田芳樹

■**選定理由**：北方種で近畿地方以北では普通にみられるが、中国地方では鳥取県中部の1カ所のため池で見ついているのみである。その後の調査はなく、現状は不明である。

■**特徴**：基質を盤状に覆うように付着するが、表面にはいくつかの指状の突起をもつ。体内に緑藻の共生藻をもつために緑色をしている。

■**分布** 県内：東伯郡琴浦町西岡谷池。県外：西南日本では香川県に2カ所と大分県に1カ所；世界では寒温带地方。

■**保護上の留意点**：生息域の周囲を含め環境の大きな変化をしないこと。水を干す場合には冬期に実施するとともに芽球を採取し避難させること。

■**文献**：12, 13.

執筆：益田芳樹

## ミドリビル ヒル目ヒラタビル科

*Ancyrobdella smaragdina* (Oka, 1910)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：情報不足 (DD)



県外(宮城県)採集個体 2013.7.3 / 撮影：中野隆文

■**選定理由**：県内における生息確認事例は限定的であるが、評価に必要な情報に乏しく、情報不足として選定した。

■**特徴**：体長は約1 cmで最大でも2 cm程ほどの、小型ヒラタビル類。体色は一様に緑色を呈する。眼は2対で、尾吸盤は最体幅の半分に達する程度であり、背面の乳頭突起の発達は弱い。また吻の先端に3個の突起を有する。吸血性種で魚類や両生類の血液を吸うほか、過去には二枚貝の殻表面より得られたこともある。

■**分布** 県内：国府川(倉吉市国府橋周辺)において生息が確認されている。県外：本州、四国、九州の河川と湖沼。とくに琵琶湖と琵琶湖流入河川、ほかに、桂川(京都府)や後川(高知県)での生息が報告されている(日本固有種；ただし今後検討の必要あり)。

■**保護上の留意点**：まずは県下における詳細な分布を把握する必要がある。

■**文献**：7, 9.

執筆：中野隆文

### ■参考文献 その他の無脊椎動物

- 林 成多 (2018) 松江堀川のシロカイメン. ホシザキグリーン財団研究報告, 21: 78.
- 一澤 圭・矢田貝繁明 (2018) 鳥取県における外来種マツモトカイメンの初報告および稀産種シロカイメンの確認記録. 山陰自然史研究, 15: 46-48.
- 川勝正治 (1955) 淡水産プラナリアの垂直分布に関する資料, I. 大山地方. 京都学芸大学学報, B, 7: 45-51.
- 川勝正治 (2012) ミヤマウズムシ. p. 164. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
- 川勝正治・大河原玄沖 (1969) 中国山脈の淡水産プラナリアの生態調査報告. 陸水学雑誌, 30: 151-164.
- Kawakatsu, M., Timoshkin, O. A., Porfirjeva, N. A. & Takai, M. (1995) Geographical distribution of *Phagocata vivida* in the Far East. *Hydrobiologia*, 305: 63-70.
- 国土交通省中国地方整備局倉吉河川国道事務所・株式会社ウエスコ (2020) 平成31年度天神川水辺現地調査(底生動物他) 業務報告書【II. 底生動物調査】. 114 pp.
- 益田芳樹 (1990) 宍道湖及びその周辺の淡水海綿について. 川崎医学会誌一般教養篇, 16: 67-82.
- Nesemann, H. (1997) Rediscovery of the leech genus *Ancyrobdella* (Hirudinea, Glossiphoniidae). *Miscellanea Zoologica Hungarica*, 11: 5-10.
- 日本ベントス学会(編) (2012) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会(神奈川), 285 pp.
- 太田太郎 (2004) 海底耕うん調査事業. pp. 65-69. In: 平成15年度鳥取県栽培漁業センター年報.
- 佐々木信男 (1969) 四国・九州産の淡水海綿について. 水産大学校研究業績, 568: 65-82.
- 佐々木信男 (1972) 本州中部(関東, 中部, 近畿各地方)産の淡水海綿について. 水産大学校研究業績, 690: 31-47.